

自民・民主 分け合う

自民・末松氏、トップで再選

参院選は11日に投票があり、即日開票の結果、兵庫選挙区（改選数2）では自民現職の末松信介氏（54）、民主現職の水岡俊一氏（54）がともに再選を果たした。末松氏は自民優勢の地方議員の組織票を、水岡氏は連合兵庫の労組票を手堅くまとめ、新顔5氏を振り切った。みんなの党新顔の井坂信彦氏（36）は届かなかった。民主党は初めて2人の候補者を擁立したが、新顔の三橋真記氏（32）は浸透しきれなかった。投票率は54・41%（前回56・61%）だった。

神戸市中央区の末松氏の事務所では、午後8時すぎに再選が報じられ、拍手と歓声がわき起こった。末松氏は詰めかけた井戸敏三知事や県議、市議らを前に「もし敗れたら自民党は明日がないと思って

2010
参院選

@兵庫

必死で戦った」と目焼けた顔を緩ませた。「選挙中に『自民党をそろそろ自覚めよ』『民主党に政治を任せておけない』という声がどんどん高まった」と語った。

引退も相次いだ。支援を受けつつも、選挙戦の中心に

なったのは県議会で過半数を占める県議ら地方議員だ。自民県連は「ここで負けたら来年が危ない」と、来春に

統一地方選で改選を迎える県議らの危機感をあおり、後援会を中心とする組織を固めさせた。業界団体にも地域支部単位で地方議員らが接触し、

支持の引き留めを図った。公明党とも、一部でこれまでも同様に比例票を公明に回すなどして連携し、支援を受けることに成功した。



再選を喜ぶ末松信介氏（神戸市中央区）

民主党と自民が1議席ずつを分け合った6年前の参院選とは打って変わり、政権を奪われた野党として厳しい選挙戦を強いられたが、組織の底力で乗り切った。

昨夏の衆院選で衆院議員が11人から2人に激減し、堅固な地盤を誇った前衆院議員の